

第十三回南のシナリオ大賞受賞作品

優秀賞

「パラダイス・ロスト」

―この世の果ての物語―

作・萩 利行

人物

ケン (12)	ハルの双子の兄
ハル (12)	ケンの双子の妹
島袋サキ (88)	ケンとハルのおばあ
上原末吉 (30)	漁師
警官 (55)	

あらすじ

おばあとハルとケンは3人しかいない島

で自給自足の生活を送っていた。ある日、ケ

ンは、自分たちの事を知る人は誰もいないん

じやないかという寂しさを覚え、他人と話し

たい、島から出てみたいと思うようになる。

しかし、おばあは人に会う必要もないし、

島から出たら罰が当たるとケンに言う。ケンは

洞窟で見つけた人骨にさえ他人に会えた

喜びを感じ、とうとうおばあの言いつけを破

り、月二回、船で荷物を運びに来る金城のお

じいに会いにハルと港に行ってしまう。

しかし、港に来たのは、若い漁師の末吉だ

った。末吉はこの島にはおばあしかいないと

聞いていたが、なぜか、男の子と女の子(ケ

ンとハル)が古い八重山言葉を喋り、船に乗

りこむのに恐怖を覚え、石垣島に無線を入れ

る。すると大勢の警官が来て大騒ぎとなり、

おばあは二人のおばあではない事が分かる。

三人の楽園のような島の生活も終焉を迎え

た。

SE 静かな波

ケンM 青い海の先に白い雲が沸き立つ昼

下がり、双子の妹ハルと釣りをしていたら、消え入りそうな寂しさに襲われた。そのとき、背中を流れる一筋の汗が妙に冷たかったのを覚えてる

たのを覚えてる

ケン ハル

ハル なに？ ケン

ケン あのさ、俺たちのこと知ってる人って、

この世に何人いるのかな？

ハル はあ？ なんだ、それ？

ケン おばあ以外に、俺とハルのことを知っ

てる人だよ。ハルは何人いると思う？

ハル うーん、船で月に2回、島に荷物を運

んでくれる金城のおじいはい？

ケン おじいには会うなっておばあに言わ

れてんだろ。金城のおじいはこちらのこと

知らんよ。うちもおじいの顔、知らんし

ハル はっは、そうだね。けど、それがどう

した、バーカ。魚、釣れたからもう帰るぞ

ケン ちよつと待って。もう、ハルはいっ

も自分勝手だ

SE 食卓 遠くに波の音

ケンM 夜になった。いつもなら美味しいお

ばあのご飯が、今日はなんか味気ない

おばあ どうした？ ケン。飯、食わんの

か？

ハル ケンたらね、おばあ以外に俺たちのこ

と知ってる人が誰もいないって寂しがっ

てんの。ガキだよねえ、12才にもなって

おばあ お前たちが釣ってきたカワハギは

上等だ。きちんと食え。罰あたるぞ

ケン うん。……。なあ、おばあ

おばあ なんだ？

ケン この島 何で俺たちしかないんだ？

おばあ それは前、話したろ

ケン 仕事が無くなって皆 島を出たのか？

おばあ そうだ。けどな、仕事なんか無くて

もきちんと生きてれば、この島は何でも恵

んでくれる。食うに困ることはない

ケン 今度、金城のおじいに会わせてくれ

おばあ それは、ダメだ

ケン なんでだ？

おばあ 理由なんかない。お前たちの事はお

ばあが知ってればそれでいい。ケンとハル

とおばあが島にいる。それだけでいいんだ

ハル そうだ！ ケン、何でそんなこと言

う？

ケン 俺も分かんないけどさ、知りたいんだ

ハル 何を？

ケン この島以外のこと。俺たち以外の人に

この島を出て会ってみたい

おばあ ケン、心ぶれとる。きちんと生きろ

ケン おばあはいつもきちんとして言う。き

ちんとなんか出来ん！ もう寝る！

ハル とつとと寝ろ！ ケンのバーカ！

SE 朝 家畜たちの鳴き声

ケンM 俺たちの一日は朝早くから始まる。

おばあは畑に行つて野菜を作り、俺とハル

は鶏や豚や羊の面倒をみる

SE 黒板にチョーク書き

ケンM 昼飯を食べると廃校になった小学

校で、おばあが算数や文字を教えてくれる。

勉強は苦手だ。けど、3時で勉強も終り。

後は好きに過ごせる。俺とハルは新しく発

見した洞窟を探検しに行った。おばあはこ

の時間、いつも海に入って泳いでる

ハル ケン、これ何だ？地面から出てるの

ケン それ、骨じゃないか？

ハル え？ 骨？ 何の動物だ？ 掘つて

みつか

SE 濡れた地面をシヤベルで掘る

ハル ウギャ！ 人の骨だ！ なんだ、いっ

ぱいあるぞ。ケン、逃げよう！

ケン 待て、ハル！

ハル 待つてられっか！ 祟られっぞ！

SE 走り去るハル

ケンM 例え骨でも生まれて初めて他人と

会った。俺は嬉しくて、骨をポケットに入

れた。おばあとハルには内緒の俺のお守り

だ。どうか、この島から出れますように

SE 食卓 遠くに波の音

ハル おばあ、今日、洞窟に人の骨がいつぱ

いあった。なんだ、あそこ？ お墓か？

おばあ 戦争中、アメリカに攻められて、も

う逃げられないと思つた家族が大勢 自殺

したんだ。その骨だろう、きつと

ハル この島で戦争、あったのか？

おばあ 戦闘機が機銃掃射して何人も死ん

だ

ハル おばあはどうして生き残つた？

おばあ 両親が覆いかぶさってかばつてく

れた。だが、家族も親族も皆死んだ。地獄

だった

ハル え？ じゃあ独りになったの？ お

ばあは

おばあ そうだ。だから戦争終わつたら、親

がいない私を、アメリカや大人たちは散々

苛めた。戦争が終わっても地獄だった

ハル 私、罰当たらないかな？ おぼあ

おぼあ 大丈夫だ。この島にずっといれば、

罰は当たらん。それは、おぼあが保障する

ハル 良かった。ケン、明日お祈り行こうね

ケン 本当かよ、おぼあ

おぼあ ん？……。なにがだ？

ケン なんでずっと島にいれば罰が当たら

ないんだ。島を出たい俺は罰当たりか？

おぼあ ああ、罰当たりだ

ケン なんで罰当たりなんだ？ 俺とハル

は、なんでこの島から出ちゃダメなんだ？

おぼあ おぼあは誰も信じないことにした

ケン え？……。なに言ってるんだ、おぼあ

おぼあ 戦争が終わったあとにそう決めた。

他人がいれば争いが起こる。大なり小なり、

それは戦争に繋がる。それにひきかえ、こ

の島はきちんとしとれば、独りで生きてい

ける。争いも起こらん。お前達もそうしろ

ケン やだ！ 俺はやだ！

ハル ケン、何で言う事きかないの！

ケン ハル、お前、それでいいのかわ！

ハル ハルはずっとこの島でおぼあとい

る！

ケン 勝手にしろ！ もう寝る！

ハル とつとと寝ろ！ ケンのバーカ！

ケンM おぼあもハルも話にならない。俺はポ

ケットから骨を取りだし、満月に照らしな

がら、いろいろ考えた。そして、明日、ハル

を連れて強硬手段に出ることにした

SE 二人の足音。急に止まる

ケン どうした？ ハル

ハル やっぱ、ヤダ！ 行かない！

ケン 今日は金城のおじい来る日だ！

船に乗せてもらうんだ！ ハルも来い！

ハル 手、放してよ、ケン！ 私、やだ！

ケン 何で人に会っちゃダメなんだ！ 何

で島から出ちゃダメなんだ？ 俺たち、牢

屋に入れられた犯人か？ 悪い子供たち

か？

ハル そうかもしれんよ！

ケン え？

ハル 私が何も考えてないと思った？ ケ

ン

ケン なんだ？ どうした？ ハル

ハル おぼあって本当に私達のおぼあか

な？

ケン え？ どういうことだ？

ハル 昨日、おぼあは独りがいいって言って

た。他人がいれば争いが起こるって

ケン それがどうした

ハル 独りがいいって言ってんのになんで

私達 孫がいる？ 誰も信じないっておぼ

あ、言ってたんだぞ。そんな女が結婚する

か？

ケン 知るか。おばあに聞けばよかったら

ハル そんなん怖くて聞けるか

ケン だったら金城のおじいに聞くぞ。きつ

と何か知ってるはずだ

ハル 大変な事になるかもしれんよ、ケン。

それでもいいの？

ケン このままじゃ、嫌なんだ、ハル

ハル そうか。分かった。行こう！

CI 海を走る船のエンジン

末吉M 今日死んだ金城のおじいから引

き継いだ荷運びの仕事だ。この島に独りで

住むおばあは人間嫌いの変わり者らしい。

『倉庫に荷物置いたらおばあには会わず、

すぐに島から引き返せ』これがおじいの遺

言だ

SE 船がゆっくり止まり始める

末吉M 島に近づくと、港に2つの小さな人

影が並んでいた。近くで見ると、それは小

汚い恰好をした金髪で青い眼の男の子と

女の子だった

末吉 通じるかな？ ここで何してるの？

ケン やあ、金城ぬうじいか？

末吉 はあ？ 日本語？ 違うよ、俺は金城

のおじいじゃない。上原末吉、漁師だ。君

達のお父さんとお母さんはどこ？

ハル なあふいんよーんなあいちくいみそ

ーれー（もう一度ゆっくり言っ下さ

い）

末吉 はあ？ 何だ？ 何言ってるか分か

らんね

SE 2人が船に乗りこんでくる

末吉 ちよつ、ちよつ、ちよつと待つてよ。

ダメだよ、勝手に船に乗っちゃ！

末吉M 2人は船を出してほしいらしい。意

志の塊のようなその姿に俺は恐怖を覚え、

無線で石垣島に連絡した。すると大勢の警

官がやって来る大騒ぎになってしまった

SE 捜査現場のような喧騒

警官 いやー、びっくりだ。37年間、警官や

ってるがこんなの初めてだ。まさか、外国

人の子供が2人もこの島にいたなんてね

末吉 あの子達は何者ですか？

警官 どうしてそうなったのかは分からん

が、島袋サキ、あ、この島に住んでいるお

ばあな、その島袋サキが赤ん坊の頃から

12年間、孫のようにあの2人を育てていた

らしい。男の子はケン、女の子はハルと名づけて

末吉 え？　なんでそんな事を？

警官 分かん。とりあえず島袋サキを石垣に連行する。子供達は保護せんといかんが、八重山の古い言葉しか喋れんし、調べたら戸籍もない。誰もいない島で外と連絡も取らず、3人だけで生活してたそうなんだ

末吉 あの子達は一体、誰の子なんですか？

警官 それだがな、12年前、那覇で米軍将校の双子の赤ん坊がさらわれた事件があった。もしかしたらその子供達かもしれないね

末吉 え？　そんな事件あったんですか？

警官 おっとこれは内緒だった。もう、これ以上は教えんよ。犯人も捕まっとらんしな

末吉 ふふ、お巡りさん、全部、喋っとる

警官 いいか、忘れるんだ。ところで、あんた

いつもこの島に船で荷物運んでたの？

末吉 いや、今日が初めてです

警官 あ、そ。ま、あんたにも話を聞かなく

ちやならんから、署までご同行願おうか

末吉 はい。仕方ないですね

警官 あんたも関係者だ。島袋サキと子供達と一緒に警察の船に乗ってもらうよ

末吉 え？　俺の船はどうすんですか？

警官 我々が責任もって石垣まで運転する

から。大丈夫だ。心配すんな

末吉 M すっかり暗くなった頃、両手に手錠

をかけられた島袋サキが港に現れた。御年88歳の老人だというが、しゃんと伸びた背中、無駄な贅肉のない体、鋭い眼光、60歳、いや、下手な50歳よりも若く見える

SE 海の上を走る高速艇

末吉 M 俺は島袋サキと2人の子供と一緒に

に石垣島に向かう高速艇に乗った。警官は

中にいなかった。手錠をはめられて目を閉じ、ソファに座るサキを近くで見ると、この世のものとは思えない神々しさを感じた

おばあ 金城のおじいちは死んだのか？

末吉 はい。先月、息を引き取りました

おばあ そうか。お前は孫か？

末吉 いえ、親戚です。あの子達は誰ですか？ お巡りさんは誘拐されたアメリカ

軍の将校の子供じゃないかって言ってました。本当ですか？　もしかして金城のおじいも、あの子達の誘拐に関わっていたんですか？

おばあ ふふ。お前は知らんほうがいい。私はここで消える。後はよろしく頼む

末吉 え？

SE ドアを開け、強風が入る

末吉M サキはドアを開けると、ためらうことなく猛スピードで走る高速艇から、手錠のまま、暗い海に飛び込んだ

末吉 飛び込んだ！ サキさんが飛び込んだ！

SE 高速艇が止まる

末吉M 船を止め、暗い海を照らしたが島袋サキは見つからなかった。警官はあの状況で助かるのは無理だろうと言う。この子たち、これからどうなるのだろうか？

CI 海を走る高速艇

ハル ケン、泣いてるの？
ケン そんなことない

ハル やっぱおばあは、本当のおばあじゃなかったね。私たち、どうなるんだろうね？
ケン おばあが言うようにきちんと生きてればいいんだ

ハル あれ？ ケンらしくないこと言うね。
え？ なにポケットから出してるの？
あ？ 洞窟の骨。気持ちわる〜。持ってたの？

ケン 俺のお守りだった。けど、もう要らんのよ。海に投げる。や！

ハル はー、良く飛んだねえ
ケン おばあ！ また会おうね！
ハル おばあ！ それまで元気だね！

(了)